

# 行政視察等報告書

平成29年10月27日

境港市議会  
議長 岡空 研二 様

会派名 自民クラブ  
代表者 荒井 秀行



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察等期間	平成29年7月14日（金）～平成29年7月15日（土）
2 視察等先 及び内容	平成29年7月14日（金） 13:00～20:00 ○岡山コンベンションホール 『第20回北前船寄港地フォーラム in おかやま』  ○ANAクラウンプラザホテル岡山 レセプション（参加費は自費）  【視察内容】 ・平成32年完成予定の竹内南地区国際フェリーターミナル において、「北前船寄港地フォーラム」の誘致について、参 考にするため、市職員とともに参加する。  ※ 岡山市内にて宿泊し、翌日に境港市へ帰着
視察等議員	永井 章、築谷 敏雄
4 総 経 費	合計（2名）26,360円（一人当たり13,180円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

内 容：第20回北前船寄港地フォーラム in おかやま

報告者：築谷 敏雄

所見等：

#### 【フォーラム内容及び所見】

- ・北前船寄港地フォーラムは、かつて大阪と北海道を瀬戸内海や日本海を經由して結んだ北前船の寄港地同士の連携や交流による活性化を目的として、全国各地で開催され、今年で20回目の開催になる。北前船は、江戸時代中期から明治時代中期まで、北海道と大阪と日本海を經由して運行されていた廻船で、広範囲の物流ネットワーク機能により、途中の寄港地を結んで瀬戸内海及び日本海側の経済圏が形成され、各地の文化の形成にも大きな影響を与えてきた。岡山にも、岡山藩の海の玄関口として栄えた北前船の寄港地・牛窓（瀬戸内市）や下津井（倉敷市）、日比（玉野市）などがあり、牛窓で降ろされた物資は岡山城下へ運ばれており、下津井は、北前船の寄港地として栄え、その北前船から仕入れたニシン粕は綿花の肥料として使われてきた。ニシン粕は綿花の栽培に欠かすことができないものであり、これが繊維の町としての今日の繁栄につながっている。こうした歴史の縁で結ばれた全国各地の自治体との交流は、地理的状况や自治体の規模に関係なく行うものであることから、通常では触れ合う機会の少ない全国の寄港地を知ってもらうことがよい機会になるものと考えられる。
- ・フォーラムではパネルディスカッションなどがあり、開催4市の市長が岡山の観光戦略を討議した。大森雅夫岡山市長は広島、高松、松山市との瀬戸内海観光プロモーションを紹介して「多様な連携を取っていくべき」と指摘。武久顕也瀬戸内市長、黒田晋玉野市長は「認知度を上げる」「自分たちのまちに自信を持つ」とポイントを挙げた。伊東香織倉敷市長は、北前船と同時に日本遺産に認定された繊維産業の「歴史、文化を生かす取り組みに力を入れる」と強調。互いに瀬戸内海をはじめとした地域資源を磨き、誘客につなげていくことを確認した。また、来年春の第23回フォーラムは中国・大連市で開催することを発表された。
- ・境港市と北前船との関わりは、江戸中期頃より弓ヶ浜の綿の生産が急激に増加し、加えて木綿の生産も飛躍的に伸びてきており、北前船は綿や木綿の買い入れと、綿作の肥料としてニシン粕の売り込みに頻繁に入港していた歴史的背景がある。平成29年11月には、第22回フォーラムが鳥取市において開催の予定で、計画では各寄港地に加えてロシア、韓国、中国など環日本海地域にも参加を呼びかけ、国際色豊かな未来志向のフォーラムを目指すとされている。本市も平成32年の竹内南国際フェリーターミナル完成に合わせて誘致を行い、早めに準備室を立ち上げ、境港ならではのおもてなしを計画するべきと考える。